

慮に入れた維持管理計画の必要性が明らかになった。

P-7

二次草原における環境保全ボランティアの参加意識において－阿蘇野焼き支援ボランティアを対象として－

牧 安奈（東京農業大学） 麻生 恵（東京農業大学） 栗田和弥（東京農業大学）

本研究が対象とする二次草原を保全するためには、人の手による維持管理が必要である。しかし近年、産業構造の変化や地域社会の変容により、二次草原を支えてきた畜産業などの人の営みが衰退し、草原面積の減少や生物多様性の低下などの問題が顕在化してきている。日本最大の草原面積をもつ阿蘇くじゅう国立公園では、地域住民や行政、専門家、ボランティアなどの多様な主体が関わって草原の保全に取り組んでいる。その中のひとつの役割を担っている、ボランティアによる草原維持管理活動は、現在の二次草原の維持管理になくてはならないほどにその必要性を高めており、この活動を持続していくためにもボランティアの人々の意識を明らかにする必要があると考える。そこで本研究では、阿蘇地方の草原維持活動に参加するボランティアを対象とし、二次草原における環境保全ボランティアの意識について明らかにすることを目的とした意識調査を行った。（393文字）

P-8

市民参加・NPOによる自然環境の保全管理の課題に関する調査研究

栗田和弥（東京農業大学）

市民参加やNPOによる自然環境の保全管理が、その活動の必要性と共に実効性が社会的に認められるようになり、今後も担い手としての役割が重要視されるといえよう。しかし、自然環境そのものに対する効果や活動の継続性の確保な未知の点も多い。そこで本論は、活動対象としての自然環境（フィールド）と、市民参加やNPO等の活動主体に着目し、それぞれの課題を明らかにすることを目的とした。まず、文献調査（日本造園学会誌・環境情報科学論文集など）に掲載された論文に基づいてレビュー

を実施し、それぞれの研究で取り上げられた対象地の自然環境と、そこでの研究結果として明らかになった市民参加やNPOの課題を抽出した。つづいて、自然環境およびそれらの課題を整理し、解決すべき点について、延いては今後課題となりうる点について体系的に示し明らかにした。

P-9

利根川上流域における「武尊100散歩トレイル」の市民による整備・運営計画について

岸 昌孝（非営利特定活動法人利根川上下流連携支援センター）

栗田 和弥（東京農業大学）

わが国の多くを占める二次的自然環境の適切な保全管理の必要性が問われている。また同時に、余暇時間の増加や余暇活動の多様性に伴って市民の自然体験への嗜好や健康志向、環境学習への関心の高まりなどによる登山やウォーキングはますます注目されると考えられる。そこで「保全管理」と「歩き」を組み合わせた新しいしくみによる自然環境の賢明な活用をする実践の一つとして、群馬県利根川上流域に位置する武尊山（ほたかやま）の中腹を一周する形で100kmの歩道を整備・運営する「武尊100散歩トレイル」計画がある。本稿はその事例を紹介し、多様なステークスホルダーと実施する主体（整備・運営に関わる市民（地域住民・活動参加者）、行政（林野庁・市町村等）、NPO（利根川上下流連携支援センター）、その他支援者（民間企業等））の連携について報告する。

P-10

山形県金山町における周辺環境や住民の属性の違いと景観認識に関する調査研究

山下 賢太郎（東京農業大学） 朝日 隆太（東京農業大学）

麻生 恵（東京農業大学）

近年、農村景観やその構成要素に対する関心の高まりとともに、それを活用したまちづくりが全国各地で見られるようになってきており、そのためには住民の景観認識を把握する必要がある。本研究では、研究室の活動として、全国でも先駆けて景観政